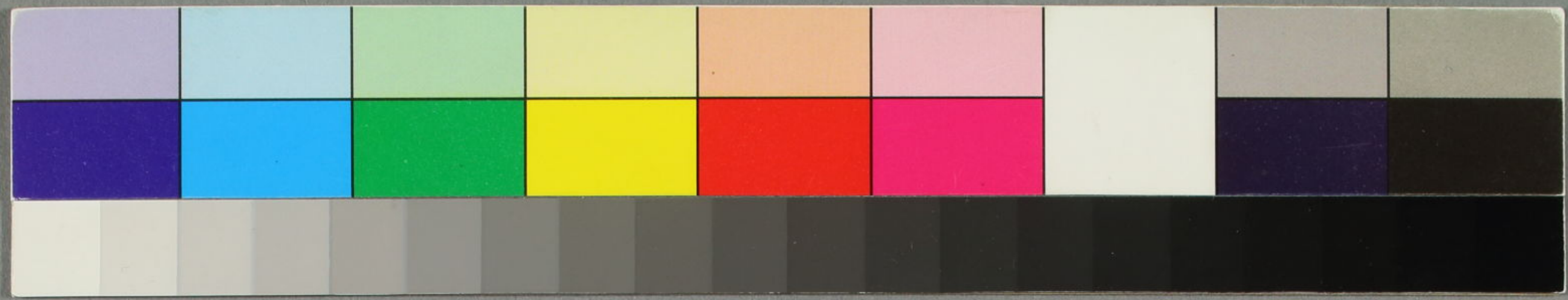


役者評判記

子13
3851
7





役者渡初
京上
大坂

手13
3851
7



後者 渡り

藝形定

目録

死の部乃 終焉 易

二子之 森の 大入

いおれ 概

續をさぬ 万をま

どうも

笑 顔のよ 布 袋

川 舟の 下 乃 上 系

手 びん

後 川

7

6

そと武とあつそふ
あつそふの勢ひも

あつそふく 虫を交

三つ交三の事なれふ

万代の龜谷

中の一庭の

引紙の

あつそふく

あつそふく

京西余武藝長秋後者同縁

大坂南牙素

南例は素

大坂中牙素

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

大坂道徳通

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

あつそふく

上上吉 関三郎門 五見

上上吉 大四五八番とありあり 五平橋

上上吉 嵐離助 五見

上上吉 嵐吉三郎 五見

上上吉 中山吉三郎 五見

上上吉 中由文三郎 五見

上上吉 藤尾貞次郎 五見

上上吉 藤川八郎 五見

上上吉 坂本吉三郎 五見

上上吉 三沢村三郎 五見

上上吉 尾上三郎 五見

上上吉 實徳三郎

上上吉 濱尾三郎 五見

上上吉 山村三郎 五見

上上吉 親仁三郎 五見

上上吉 教徳三郎

上上吉 嵐吉三郎 五見

上上吉 中由文三郎 五見

上上吉 藤尾三郎 五見

上上吉 関三郎門 五見

上上吉 大四五八番とありあり 五平橋

上上吉 嵐離助 五見

上上吉 嵐吉三郎 五見

上上吉 中山吉三郎 五見

上上吉 中由文三郎 五見

上上吉 藤尾貞次郎 五見

上上吉 藤川八郎 五見

上上吉 坂本吉三郎 五見

上上吉 三沢村三郎 五見

上上吉 尾上三郎 五見

上上吉 實徳三郎

上上吉 濱尾三郎 五見

上上吉 山村三郎 五見

上上吉 親仁三郎 五見

上上吉 教徳三郎

上上吉 嵐吉三郎 五見

上上吉 中由文三郎 五見

上上吉 藤尾三郎 五見

上上

嵐崎町 藤原

いづれも中つとくぬまといふは

上上

清原のつとく 藤原

よきとくのおつとくの 藤原

上上

中村 藤原 藤原

いづれも中つとくぬまといふは

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上

三橋 藤原 藤原

上上 芳沢万代 後村

上上 芳沢万代 飛井松

上上 嵐 義重 高松

上上 山下重雲 高松

上上 飛もこぞ 高松

上上 榊山 高松

上上 尾三 高松

上上 石切 高松

上上 嵐 源 高松

上上 今井 高松

上上 今井 高松

上上 市川 高松

上上 嵐 高松

上上 嵐 高松

上上 嵐 高松

上上 嵐 高松

上上 嵐 高松

上上 嵐 高松

上上 嵐 高松

上上 嵐 高松

上上 嵐 高松

上上 嵐 高松

極上吉

名入のちびのり 市川

市川 高松

嵐 高松

嵐 高松

嵐 高松

嵐 高松

嵐 高松

嵐 高松

嵐 高松

嵐 高松

一 坂本岩井 一 津山極楽
 二 津山極楽 一 津山極楽
 三 津山極楽 一 津山極楽
 四 津山極楽 一 津山極楽
 五 津山極楽 一 津山極楽
 六 津山極楽 一 津山極楽
 七 津山極楽 一 津山極楽
 八 津山極楽 一 津山極楽
 九 津山極楽 一 津山極楽
 十 津山極楽 一 津山極楽

上上

▲ 美濃郡之部 芳沢宮寺 善宗

上上

▲ 津山極楽 津山極楽 善宗

市川

▲ 市川極楽 市川極楽 善宗

▲ 津山極楽 津山極楽 善宗

市川

並本 正三
 待中 永七
 並本 十助
 並本 長藏
 並本 建藏
 辰岡 万丸

市川

▲ 市川極楽 市川極楽 善宗
 ▲ 津山極楽 津山極楽 善宗
 ▲ 市川極楽 市川極楽 善宗

○ 一すしや上

一 市川極楽の義徳... 去る... 善宗... 俗名... 宗悟... 日蓮宗... 宗悟... 日蓮宗... 宗悟... 日蓮宗...

りもたやうにさうな^四とてうま多々の
のみ^五未^六未^七未^八未^九未^十未^{十一}未^{十二}未^{十三}未^{十四}未^{十五}未^{十六}未^{十七}未^{十八}未^{十九}未^{二十}未^{二十一}未^{二十二}未^{二十三}未^{二十四}未^{二十五}未^{二十六}未^{二十七}未^{二十八}未^{二十九}未^{三十}未^{三十一}未^{三十二}未^{三十三}未^{三十四}未^{三十五}未^{三十六}未^{三十七}未^{三十八}未^{三十九}未^{四十}未^{四十一}未^{四十二}未^{四十三}未^{四十四}未^{四十五}未^{四十六}未^{四十七}未^{四十八}未^{四十九}未^{五十}未^{五十一}未^{五十二}未^{五十三}未^{五十四}未^{五十五}未^{五十六}未^{五十七}未^{五十八}未^{五十九}未^{六十}未^{六十一}未^{六十二}未^{六十三}未^{六十四}未^{六十五}未^{六十六}未^{六十七}未^{六十八}未^{六十九}未^{七十}未^{七十一}未^{七十二}未^{七十三}未^{七十四}未^{七十五}未^{七十六}未^{七十七}未^{七十八}未^{七十九}未^{八十}未^{八十一}未^{八十二}未^{八十三}未^{八十四}未^{八十五}未^{八十六}未^{八十七}未^{八十八}未^{八十九}未^{九十}未^{九十一}未^{九十二}未^{九十三}未^{九十四}未^{九十五}未^{九十六}未^{九十七}未^{九十八}未^{九十九}未^百

美^一美^二美^三美^四美^五美^六美^七美^八美^九美^十美^{十一}美^{十二}美^{十三}美^{十四}美^{十五}美^{十六}美^{十七}美^{十八}美^{十九}美^{二十}美^{二十一}美^{二十二}美^{二十三}美^{二十四}美^{二十五}美^{二十六}美^{二十七}美^{二十八}美^{二十九}美^{三十}美^{三十一}美^{三十二}美^{三十三}美^{三十四}美^{三十五}美^{三十六}美^{三十七}美^{三十八}美^{三十九}美^{四十}美^{四十一}美^{四十二}美^{四十三}美^{四十四}美^{四十五}美^{四十六}美^{四十七}美^{四十八}美^{四十九}美^{五十}美^{五十一}美^{五十二}美^{五十三}美^{五十四}美^{五十五}美^{五十六}美^{五十七}美^{五十八}美^{五十九}美^{六十}美^{六十一}美^{六十二}美^{六十三}美^{六十四}美^{六十五}美^{六十六}美^{六十七}美^{六十八}美^{六十九}美^{七十}美^{七十一}美^{七十二}美^{七十三}美^{七十四}美^{七十五}美^{七十六}美^{七十七}美^{七十八}美^{七十九}美^{八十}美^{八十一}美^{八十二}美^{八十三}美^{八十四}美^{八十五}美^{八十六}美^{八十七}美^{八十八}美^{八十九}美^{九十}美^{九十一}美^{九十二}美^{九十三}美^{九十四}美^{九十五}美^{九十六}美^{九十七}美^{九十八}美^{九十九}美^百



練輝旭面箱

三上野三郎

小洲多美布



三上野三郎

大谷源次郎

山崎

丹波

又これの事すしに^ハ其後の^ハきくは^ハ家
 ありし^ハ書^ハ後^ハ其^ハた^ハ其^ハた^ハ其^ハ
 所^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ

上言



申由文七

其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ

其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ
 其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ其^ハ

此の如き物類の多きものならざるは
此の如き物類の多きものならざるは
此の如き物類の多きものならざるは
此の如き物類の多きものならざるは
此の如き物類の多きものならざるは
此の如き物類の多きものならざるは
此の如き物類の多きものならざるは
此の如き物類の多きものならざるは
此の如き物類の多きものならざるは
此の如き物類の多きものならざるは

彼は初めは...
大徳...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

さうして天竺の教をわける人おぼ
かたは法皇の御孫の御孫とて
中央の御孫とてまゐるものと
まゐるものとありては御孫の御
の御孫の御孫の御孫の御孫
とてまゐるものとありては御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫

上上吉 國三三三三 毎月

東國の御孫とてまゐるものと
中央の御孫とてまゐるものと
は御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫

さうして天竺の教をわける人おぼ
かたは法皇の御孫の御孫とて
中央の御孫とてまゐるものと
まゐるものとありては御孫の御
の御孫の御孫の御孫の御孫
とてまゐるものとありては御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫
の御孫の御孫の御孫の御孫

國平んぬぬ女は平らむるふかむし山依
こふ院と村らむしとふらぬふらぬふらぬ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

上上吉 ㊦ 虎 龍 助 善 川 左

善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左
善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左
善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左
善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左
善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左
善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左 善 川 左

中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正
中 臣 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正 因 知 部 守 正

ていつかあると云ふの目録のなかへ
かゝる文はあつたといふに其の
中程の事は接してゐるが
これ等は其のまゝに
下等の文に於ては
下等の文に於ては

上上 中山文書

のまゝに接してゐるが
これ等は其のまゝに
下等の文に於ては
下等の文に於ては
下等の文に於ては
下等の文に於ては
下等の文に於ては
下等の文に於ては
下等の文に於ては
下等の文に於ては
下等の文に於ては

上上

法成園第

法成園第
法成園第
法成園第
法成園第
法成園第
法成園第
法成園第
法成園第
法成園第
法成園第

上上 後川八巻

後川八巻
後川八巻
後川八巻
後川八巻
後川八巻
後川八巻
後川八巻
後川八巻
後川八巻
後川八巻

後考渡初
京大坂下

多
1.6/11
10

世の事や成る人多しむ世の事と成
自風流の事や成る人多しむ世の事
と云ふ事や成る人多しむ世の事
有る事や成る人多しむ世の事
七言五言半言の事や成る人多しむ世の事
美事や成る人多しむ世の事
之れを云ふ事や成る人多しむ世の事
此れを云ふ事や成る人多しむ世の事
と云ふ事や成る人多しむ世の事
と云ふ事や成る人多しむ世の事
物事や成る人多しむ世の事
此れを云ふ事や成る人多しむ世の事
先登事や成る人多しむ世の事

世の事や成る人多しむ世の事
此れを云ふ事や成る人多しむ世の事
と云ふ事や成る人多しむ世の事
と云ふ事や成る人多しむ世の事
物事や成る人多しむ世の事
此れを云ふ事や成る人多しむ世の事
先登事や成る人多しむ世の事
と云ふ事や成る人多しむ世の事
と云ふ事や成る人多しむ世の事
物事や成る人多しむ世の事
此れを云ふ事や成る人多しむ世の事
先登事や成る人多しむ世の事
と云ふ事や成る人多しむ世の事
と云ふ事や成る人多しむ世の事
物事や成る人多しむ世の事
此れを云ふ事や成る人多しむ世の事
先登事や成る人多しむ世の事

よき事なりん人形をなすは老の
徳のまじき曲なりし故に其のまじき
まじき曲をなす事なりし故に其のまじき
中へ柱をなす事なりし故に其のまじき
い故に其のまじき曲をなす事なりし
のまじき曲をなす事なりし故に其の
よき事なりん人形をなすは老の
徳のまじき曲なりし故に其のまじき
まじき曲をなす事なりし故に其のまじき
中へ柱をなす事なりし故に其のまじき
い故に其のまじき曲をなす事なりし
のまじき曲をなす事なりし故に其の

切書 ① 山村儀志 着

此の儀志の著るべき事なりし故に其の
のまじき曲をなす事なりし故に其の
まじき曲をなす事なりし故に其のまじき
中へ柱をなす事なりし故に其のまじき
い故に其のまじき曲をなす事なりし
のまじき曲をなす事なりし故に其の
よき事なりん人形をなすは老の
徳のまじき曲なりし故に其のまじき
まじき曲をなす事なりし故に其のまじき
中へ柱をなす事なりし故に其のまじき
い故に其のまじき曲をなす事なりし
のまじき曲をなす事なりし故に其の



法海尼んふふりていつふ川流に浦のり
ふそをの念とてふにせしむ一級古田の
念海流ににせふとてふに 法海 上流に
も一級中流の流ににせしむはのり古
の浦のり念の流をせしむに 法海 三級古田一
かふむにせしむにのり 法海 上流ににせしむ
りて 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に

段をてんたうのりていつふ川流に浦のり
一級古田の流ににせしむはのり古
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に

上土吉

桐

桐

桐

このの流の大きき者 法海 念の 法海 去

法海中流の流ににせしむはのり古
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に
のり 法海 上流に 法海 中流に 法海 下流に

五

うくうんじやうからいふをゆかすのままにわらわと
 大々としてまかりし長谷川川邊にたまた
 ち高野をみるとうつの金さくらもあはれなげ
 ぢいへつをささぐりゆきまて銀一の金もち
 さまからいふまじりあてしとてかへりてはな
 まなごのまの雨ふかしのぬくきよしの
 ちかたのまのまのまのまのまのまのまの
 ぢいへつをささぐりゆきまて銀一の金もち
 さまからいふまじりあてしとてかへりてはな
 まなごのまの雨ふかしのぬくきよしの
 ちかたのまのまのまのまのまのまのまの
 ぢいへつをささぐりゆきまて銀一の金もち
 さまからいふまじりあてしとてかへりてはな
 まなごのまの雨ふかしのぬくきよしの
 ちかたのまのまのまのまのまのまのまの

さよふ女今での二んく

上上吉

中山大入部 為

いふはまのまのまのまのまのまのまのまのまの

西茶屋にまてゐるおれをさかしたるおれと
 お七の儀もあつて西茶屋おれのお丹
 波のおれのおれをささぐりゆきまて銀一の金もち
 さまからいふまじりあてしとてかへりてはな
 まなごのまの雨ふかしのぬくきよしの
 ちかたのまのまのまのまのまのまのまのまの
 ぢいへつをささぐりゆきまて銀一の金もち
 さまからいふまじりあてしとてかへりてはな
 まなごのまの雨ふかしのぬくきよしの
 ちかたのまのまのまのまのまのまのまのまの
 ぢいへつをささぐりゆきまて銀一の金もち
 さまからいふまじりあてしとてかへりてはな
 まなごのまの雨ふかしのぬくきよしの
 ちかたのまのまのまのまのまのまのまのまの

松乃つ葉のつやもさへ成らば奇妙無
と云ふ事なほほめてあるはさへいふまへ
に長はるるを好むと云ふはあつたるも亦
と改むてはあつたるも亦いふて

秘中一のちもさへいふて

上上吉 **藏** 山下八百五 市井

岸はつたもいふていふていふていふて
昔はつたもいふていふていふていふて
公にありていふていふていふていふて
水島よりいふていふていふていふて
ころはつたもいふていふていふていふて
大徳のつたもいふていふていふていふて
役大つたもいふていふていふていふて
ころはつたもいふていふていふていふて
と上上吉出入添に添に添に添に添に添に

アキのつたもいふていふていふていふて
ころはつたもいふていふていふていふて
大徳のつたもいふていふていふていふて
役大つたもいふていふていふていふて
ころはつたもいふていふていふていふて
と上上吉出入添に添に添に添に添に添に

たれは金精よりれ世をて非とて
取らざる其を夫がよむとらひの想う
まゝとておのひの中やましく二夜は世に
強いでぬきしとて場を家の徳とて
七女房より二夜をのびつらうとて
きんぎょの形にておの様のむすこ
よく^{たれ}のまを本とせばせのれぬか
うきとてまをのたまといへうとて
抱えうのまのぞとて夫のまのまを
ふく^{たれ}のまを無とて夫のまを
強いで^{たれ}のまのまを入とてわう
下とてまをのたまといへうとて
強きまをのたまといへうとて
よは^{たれ}のまをのたまといへうとて
強きまをのたまといへうとて

上上 中山一徳 市白丸

たれは金精よりれ世をて非とて
取らざる其を夫がよむとらひの想う
まゝとておのひの中やましく二夜は世に
強いでぬきしとて場を家の徳とて
七女房より二夜をのびつらうとて
きんぎょの形にておの様のむすこ
よく^{たれ}のまを本とせばせのれぬか
うきとてまをのたまといへうとて
抱えうのまのぞとて夫のまのまを
ふく^{たれ}のまを無とて夫のまを
強いで^{たれ}のまのまを入とてわう
下とてまをのたまといへうとて
強きまをのたまといへうとて
よは^{たれ}のまをのたまといへうとて
強きまをのたまといへうとて

上上 稲 方法万代

たれは金精よりれ世をて非とて
取らざる其を夫がよむとらひの想う
まゝとておのひの中やましく二夜は世に
強いでぬきしとて場を家の徳とて
七女房より二夜をのびつらうとて
きんぎょの形にておの様のむすこ
よく^{たれ}のまを本とせばせのれぬか
うきとてまをのたまといへうとて
抱えうのまのぞとて夫のまのまを
ふく^{たれ}のまを無とて夫のまを
強いで^{たれ}のまのまを入とてわう
下とてまをのたまといへうとて
強きまをのたまといへうとて
よは^{たれ}のまをのたまといへうとて
強きまをのたまといへうとて

乃てか中なるや中なる松の如く
 こゝに松はありては松の如く
 大なる松はありては松の如く
 ありては松の如く
 大なる松はありては松の如く



桐 山 美松 市川

松の如く
 ありては松の如く
 大なる松はありては松の如く



松 山 田松 市川

ありては松の如く
 大なる松はありては松の如く

上



松 山 雅松 市川

ありては松の如く
 大なる松はありては松の如く



松 山 虎上 市川



松 山 松 市川



松 山 松 市川

上



松 山 山 市川

上



松 山 山 市川

ありては松の如く
 大なる松はありては松の如く

極上吉 ① 江戸町園を帯 蘇州屋

天竺の如意輪の如意輪を帯にさすうもく

可也の三豆の敷のよる路合をう風儀あり

おきてらうごの御厨子儀ありあましく

因る同結事どもあはれやもあてもよそせ移

のおとまどく ② 参まのわちの月俗の

う半宿のてあしびに二曲あるさうして結合

しん ③ 二のうはなまはらふてあつるま

侍におかたのあはれいしやふあまて後

家におかたのく ④ 及の商のうつて

付し及てあまのよまのあつていしやふく

⑤ 及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

及の及の及の及の及の及の及の及の及の

〇大坂乃終極津之長也後者曰知

竹田之居

多 坂倉の左也

府末 泉山の高也

之役 若沢の重藏

門 松島國重藏

門 百村京藏

門 百村猪三藏

門 兼崎春吉

門 藤川鐘九郎

門 山崎与市

門 山崎与市

門 山崎与市

門 山崎与市

門 山崎与市

門 山崎与市

門 山崎与市

門 山崎与市

南五之居

多 大和屋の右也

之役 中村仲之藏

門 谷村格八

門 谷村金三藏

門 尾村徳三郎

門 中村以義藏

門 泉山若吉

門 山下吉左門

門 中村友三

門 藤川由重藏

門 中村徳藏

門 朝井國五郎

門 松垣清藏

門 木本三郎

門 中村仲其藏

門 山下吉三郎

門 山崎國市

松嶋徳三郎

中村吉六郎

坂東豊吉

泉山若吉

藤川与市

中村吉五郎

〇六坂也

多 浅水の高也

之役 山崎松次郎

門 中村市藏

門 山崎金太郎

門 水本吉藏

門 中山久吉

門 名桐若吉

門 藤川音松

門 坂田重吉

門 荒木園八

門 山崎徳藏

門 中村若井藏

門 市川市藏

山崎吉次郎

沢村高次郎

谷村松三郎

花桐鶴藏

千之助

〇六坂也

多 荒本の高也

之役 山崎松次郎

門 中村市藏

門 三崎徳三郎

門 若沢若吉

門 中村若吉

門 藤川音松

門 中山西三郎

門 中村徳三郎

門 尾上徳木

千之助

〇六坂也

多 荒本の高也

〇六坂也

寛政九年 八月十八日 板



